

林	さ	ト	と	こ	榕	な	う	死	の		ら	ろ	と	妹	み	登				風
多	れ	や	さ	と	子	い	か	ぬ	よ		な	う	だ	の	、	場				に
喜	、	言	れ	は	の	だ	も	こ	う		い	。	と	有	、	人				そ
二	次	論	た	反	よ	ろ	し	と	に		、	見	美	子	、	物				よ
の	々	人	。ま	軍	う	う	れ	は	、		当	送	子	の	で	あ				ぐ
よ	と	な	た	国	に	。軍	な	お	マ		たり	る	の	よ	る	る				葦
う	検	ど	、	主	戦	国	い	国	イ		前	の	う	う	で	の				―
に	挙	は	小	義	争	主	。い	の	ン		だ	か	に	、	見	父				石
殺	さ	自	説	者	は	義	や	為	ド		。も	私	送	お	送	や				川
さ	れ	由	家	と	嫌	者	、	で	コ		し	は	る	国	る	や				達
れ	拷	主	や	なり	だ	で	そ	素	ン		か	き	。そ	の	。そ	息				三
た	問	義	新	、	と	な	う	晴	ト		す	つ	れ	為	それ	子				か
。こ	や	者	聞	当	戦	け	思	ら	ロ		る	と	も	の	と	に				ら
の	脅	や	ジャ	時	死	れ	わ	し	ー		と	み	、	喜	も	、				
よ	迫	左	ヤー	は	は	ば	な	い	ル		、	な	、	ば	、	泣				
う	に	翼	ーナ	、	嫌	な	い	こ	で		、	い	と	し	、	い				
な	り	的	ナリ	非	だ	ら	と	と	、		有	と	方	い	、	、				
世	、	と	リス	国	と	な	い	だ	戦		美	分	だ	こ	榕	悲				
の	小	な	ス	民	思	い	け	思	争		子	か		こ	子	し				

藤原楓

と人を殺しに行く、または殺されに行く男  
召集され、軍の教育を受け、そして戦地へ  
今まで戦争の映画やドラマを見てきたのだが  
てこの本を読み、一つ気づいたことがある  
ついでこの間、終戦記念ドラマを見て、そし  
伝えるため、数少ない手段である。  
と減っていく。次の世代に戦争の恐ろしさを  
りと見るべきである。戦争経験者はだんだん  
あとを残している。記念物を自らの目でしっか  
ことのない人は、原爆ドームなどの戦争の傷  
と、思ったことを覚えていく。戦争を経験した  
まっさらな町になったのは、本当なんだ。  
の傷あとがあるんだ。こここの町が何もな  
平和である日本にも、こんなにも生々しい戦争  
ムであつた。原爆ドームを見た時、この今  
刻み込ませる物があつた。それは、原爆ド  
ていない。私にも、戦争の悲劇を直接心の中  
想像しにくい。しかし、そんな戦争を経験し  
この平和ボケした私には、難しいことであ  
中がこの日本にあつたのだと、確信するに  
、

、。

せなことは何一つない。国の一つ一つの家庭  
だ。勝とうが負けようが、戦争は戦いで、幸  
はない。と、いう言葉がある。確かにその通り  
国民の心に植えつけられる不幸の形に変わり  
蒔く。国家の戦いが勝つにせよ負けるにせよ  
のなかに、生涯消えることのない不幸の種を  
作中に、一戦争は家庭のなかに、人々の心  
だけではなかつたのだ。アメリカ軍と  
時の男性も女性もこのつらい暗い孤独感とそ  
独闘つていた。とてもつらそうだった。当  
手紙を待ち続ける日々、登場人物の榕子は孤  
た。どうか生きていますようにと願う日々、  
いる女性の人たちの気持ちがかく書かれてい  
ちろん書かれてあるが、帰りをずっと待って  
この本では、戦地の男の人たちの気持ちにはも  
の帰りを待っている女性の人も同じなのだ  
ちだけではなかつた。ずっと、父や夫や息子  
でかわいそうだと思っていた。しかし、男た  
たちは、とてもつらく、恐ろしいくらい孤独

、

。

あ	世	れ	し	か	は	で	い	た	し		て	に	は		く	物	る	る	を	一
る	界	て	か	も	、	も	事	環	れ		い	入	便	毎	。	も	暇	。	容	人
の	で	し	か	し	環	あ	な	境	な		る	る	利	日		少	も	赦	一	
だ	は	ま	す	れ	境	る	の	が	か		。	時	な	、		な	な	な	人	
か	戦	う	と	な	の	。	か	当	悪		。	代	な	食		く	く	く	の	
ら	争	こ	、	い	変	ま	い	たり	い		。	。	が	に		、	、	残	心	
、	を	と	戦	。	化	た	事	前	私		そ	あ	困	。		次	人	し	に	
い	し	も	争	し	に	、	な	だ	も		れ	ふ	ま			々	の	て	生	
つ	て	あ	の	か	よ	た	の	と	ふ		こ	と	る			と	死	い	涯	
日	い	る	時	し	り	だ	か	思	と		と	に	こ			悲	を	く	消	
本	る	か	の	油	変	幸	。	っ	が		感	え	と			劇	い	。	え	
に	国	も	よ	断	わ	せ	平	て	つ		謝	と	闘			が	た	人	る	
そ	や	し	う	は	っ	の	和	い	け		す	う	生			襲	わ	の	こ	
れ	軍	れ	な	大	て	価	だ	る	ば		る	活	活			っ	り	と	と	
ら	国	な	い	敵	き	値	と	。	、		こ	が	て			て	、	を	の	
の	主	い	。	で	た	観	い	こ	こ		な	何	く			く	無	な	い	
火	義	今	。	あ	だ	が	う	れ	の		か	も	。			。	駄	使	傷	
の	の	だ	今	り	け	、	証	は	恵		も	忘	食			。	使	い	あ	
粉	国	だ	だ	、	な	昔	抛	良	ま		れ	れ	べ			。	す	す	と	
が	が	に	さ	も	の	と			れ			手				。	す	す	と	

大戦が起こつたら。これらのもし、第三次世界  
ければならなくなつたら。もし、第三次世界  
もし、その人たちへの帰りをずっと待ち続けな  
もし、私の父や夫や息子が召集されたら。  
大事なことだ。世界平和といわれても漠然とし  
身の周りの小さなことから一歩ずつ、それが  
所の人：。大きなことを成し遂げるためには  
することから始めるべきだ。家族や友人、近  
ている。だからまず、周りの人の命を大切に  
る。しかし、世界平和といわれても漠然とし  
も減らそうという努力をすることとは可能であ  
つたらいいのかーと思う人を世界から一人で  
され、何を目標にして明日の日を生きたい  
子のように、次々と大事なものを失い、破壊  
いことである。しかし、この本に出てくる榕  
ことは、大変難しいことであり、不可能に近  
世界すべてが平和になり、戦争をなくす  
とは思わず、認識することが大切だと思う。  
もいから、この恵まれた環境を当たり前だ  
飛んでくるかは分からない。やはり、時々で

